

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572207827		
法人名	有限会社 湯の里		
事業所名	グループホーム 湯の里 【湯の里棟】		
所在地	秋田県山本郡三種町森岳字木戸沢199番地70		
自己評価作成日	平成24年10月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成24年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・手入れの行き届いた広い中庭で新緑とつじを眺めながらの会食、秋は紅葉を楽しみながらタンポポ会、四季の移り変わりを感じながら他ホームの利用者、家族、近所の方々、スタッフとの交流しながら食事を楽しんでいる。</p> <p>・当事業所は毎年関連事業所(グループホーム5棟、ショートステイ、小規模多機能型居宅介護事業所)との合同運動会を実施しており、利用者や家族、ボランティア、民生委員、来賓の方が多数参加し家族や地域との交流を深めている。毎年、じゅんさい音頭推進協議会の会員の方々々がじゅんさい音頭で運動会のオープニングを飾ってくださっている。</p> <p>・自然豊かな温泉地に位置し、ホームにも温泉が引かれ利用者は毎日温泉浴を楽しんでいる。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホールや廊下の窓など、いたるところから大きな庭を眺めることができ、利用者は季節を感じながらソファでゆっくりと過ごしている。地域の行事への参加のほか、事業所行事や外出も頻繁に行っている。利用者の排泄に関しては、自立に向けた取り組みに力を入れており、実際に改善されている。医療面でもかかりつけ医や訪問看護との連携がとれており、安心な体制が整っている。入浴は週に3回以上実施され、入浴できない日には必ず足湯を行っており、温泉浴の効果による肌トラブルの改善や、利用者の心地よい時間の提供につながっている。職員研修は年間計画のほか数多く実施しており、調理師による調理実習を行うなど、おいしく楽しく栄養バランスのよい食事の提供につながっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業理念は玄関と事務所内の見える所に掲示している。またホーム内には、独自の目標も掲げ日々取り組んでいる。	企業理念の他、ユニット毎に職員で決めた「あかるくやさしくあたたかく」などのイメージしやすいキャッチフレーズが、目につきやすい場所に掲示されており、スタッフ会議等で話し合い、共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運動会、カラオケ、タンポ会、などに参加されている。また地域の行事など利用者と共に積極的に参加しており日常的に交流ができています。	小学校の学習発表会や運動会などに参加し、利用者は子供の元気な姿に接する機会としている。また地域行事の他、事業所で開催の行事が多く、地域住民の見学の機会にもなっており、事業所の理解を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	年間を通して参加された地域の方々、民生委員の方々に理解や支援の方法を伝える機会がある。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への検討や取り組み状況、職員の研修等について報告し意見を伺い、サービスの提供に努めている。	委員の構成バランスがよくできている。会議の最後には委員のみで、まとめ(評価・要望・助言等)を行うなど、次回につながる話し合いがなされている。また、委員の質問がきっかけとなり、次の会議で利用者も参加した認知症等に関する研修を行うなど、意見が活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	直接訪問したり電話で情報交換したり、指導を受けながらサービスの提供に努めている。	担当者へは事業所側から出向いたり、電話で情報共有するなど、気軽に相談できる関係づくりがなされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員が禁止となる具体的な行為を正しく理解しており、身体拘束は行っていません。また、必要な時には、本人や家族に説明し理解を得たうえで取り組む方針である。	日々の見守りを強化している。身体拘束をしないケアについて、職員研修等により理解している。また、身体拘束禁止についての方針を確立しており、職員全員が共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会で学ぶ機会がある。利用者の自宅やホーム内での虐待を見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業や成年後見人制度について管理者や職員は、研修に参加しその必要性を認識している。必要な人に活用できるよう支援することができる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約及び解約する際は、利用者や家族に契約内容など説明を行い、不安、疑問点に対しては十分な説明を行い理解し納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が管理者や職員に意見、不満、苦情をいつでも言える雰囲気作りに努めている。またホーム内に意見箱を設けている。意見等があった場合は職員会議で話し合い運営に反映させている。	家族が訪問した際の話し合いを大切にしている。また、苦情相談窓口に、家族の代表を加えており、意見を言いやすく、反映できる仕組みができています。今後は、家族への写真や手紙の他、「たより」の発行の取り組みも進めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を行い、職員からの意見や提案は管理者会議で運営者に報告し、運営に反映させている。	月1回の管理者会議では、各事業所の申し送りやスタッフ会議で出された意見等をもちより話し合うなど、職員の意見が反映されている。また、多くの外部、内部研修の年間計画を立て実践しており、職員育成の為に環境が充実している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握している。職員各自が向上心を持って働けるよう職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を育成するため、毎年研修計画を立て、事業所内外の研修に参加させている。また、資格取得の育成にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し、運営者、管理者、職員が研修や総会に参加しており、ネットワーク作りはできている。またサービスの向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまで本人や家族に、職員は面接や調査を十分行い、検討を重ね対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者や家族及び相談者の方に施設を見学してもらい、安心して利用できるよう支援している。困っていること、不安なこと等をよく聴き、安心してもらえるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のできることを見つけ、職員と一緒にやっている。また利用者の話に耳を傾けながら、暮らしを共にする。一人一人を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加をお願いしたり、いつでも訪問していただけるようにしている。また、面会時には本人の状況報告も行っている。本人、家族、職員が一緒にお茶を飲んだりして本人を支えていくよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の大切にしているもの、想いでの物などもって来て頂いて安心できるよう支援している。馴染みの人に会ったり、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	お盆や正月は自宅へ帰ったり、事業所へ友人や知人が来訪するなど、馴染みの関係が継続されている。また、美容院からの送迎があり、気軽に顔なじみの美容院へ通うことが出来るなど支援が継続されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、利用者が孤立しないよう職員が中に入り会話したり、レクリエーションに参加し支えあえるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、ホームの行事に招待したり、困っている時は相談に応じ、利用者の家族との関係を断ち切らないよう大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活リズムを把握し、ホームの生活の中で、利用者の希望が取り入れられるよう努めている。	就寝時間を利用者一人ひとりの生活リズムに合わせてたり、一対一になった入浴時などゆっくりできる時間に話し合い、思いや意向を聞いて実践に結び付けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活環境が維持できるよう、使い慣れた食器、衣類、身の回りの物を持ってきていただき安心して過して頂くよう勤めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は一人ひとりの過ごし方や、心身状態を把握しており、洗濯物の整理、食事の下ごしらえ、食後の片付け、畑からの収穫など一人ひとりの有する力が発揮できるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族からの意見、要望を聴き、職員と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	短期目標を重視した介護計画は、具体的でわかりやすいよう工夫されている。スタッフ会議では、利用者との普段の会話や現状から、出来ることと援助の必要な部分を話し合い介護計画を立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア内容など個別に記録し、申し送りなどで情報を共有し実践や介護計画の見直しに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要に応じて、小学校の運動会、学芸発表会、地域のお祭りなどに参加しており、利用者が豊かな暮らしで楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切に、かかりつけ医、かかりつけ薬局、かかりつけ歯科医と事業所との関係は良好、適切な医療を受けられるよう支援している。	以前からのかかりつけ医を大切にしている。また、訪問看護ステーションとの連携がとれており、電話で相談できる体制が整っている。薬局が薬を配達してくれた際には指導を仰ぎ、その情報を職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと医療連携体制を築いており、看護師と気軽に相談しながら日常の健康管理についてアドバイスを頂き支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係者と連絡を密にし、情報交換に応じており、安心して治療できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階からホームで、出来ることを利用者や家族と話し合い、理解して頂いており、ホームで出来ることは支援している。	取り組みの方針や指針を定めており、事業所で出来ることを、早い段階から利用者や家族に伝え、話し合いをしている。また、かかりつけ医との連携により、看取りに対する体制が確保されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備え、救命講習を受講している。全員応急手当や初期対応ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難、防災訓練を実施しており、利用者が避難できるよう心がけている。また地域の方々も参加し協力して頂いている。	地域の協力も得ながら、定期的な避難訓練がなされている。今年は自家発電機も設置しており、非常時に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の支援に心がけ、利用者の人格を尊重しながら支援している。	利用者からの話を途中で中断したりせず、よく聞いて共感することを第一に心掛けており、利用者の誇りやプライバシーを損ねることのないようまた、一人ひとりに合わせたケアを実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中から、本人の思いや希望を知りそれらを大切に、急ぐことなく自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせた生活を保ち、希望を取り入れた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	利用者の好み、また季節に合わせた身だしなみや、おしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を作る際、利用者の意見を聴き作成している。また買い物、準備、片付けなども職員と一緒にやっている。	献立は同会社内の栄養士が確認しており、利用者の意見や希望を取り入れたメニューとなっている。また、調理師が講師となり、職員へ調理実習を行い、充実した食事の提供と、食事を楽しんでもらえるための工夫がされている。利用者は行事やそれ以外でも甘酒やビールでにぎわうこともある。今後は寿司にぎりの実演を計画している。	食事について沢山の努力・工夫がみられるが、夕食の時間について、利用者の状況も踏まえ、適切かどうかの検討をされることが望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量が確保されているかを把握し利用者の状態、習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自立の利用者には見守り、援助の必要な利用者は職員と一緒にやっている。義歯、歯ブラシの洗浄などはポリドントを使用し清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握し、安心して排泄できるよう努めている。オムツに頼らない自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表の活用の他、さりげない声掛けやトイレへの案内を適切に行っている。利用開始時はおむつ等を使用していた利用者のほとんどが現在は綿パンツ等に改善されているなど、利用者、家族にも喜ばれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や適度な運動を促している。飲食物にも考慮しながら取り組んでいる。また、医師の指導の下、薬の服薬を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の体調や希望、健康状態に合わせて入浴を楽しめるよう支援している。	週に3回から4回入浴のほか、希望により毎日入浴される利用者もいる。体調の優れない場合など、入浴のできない日は必ず、足湯、清拭を行っており、毎日の温泉浴の効果で肌トラブルの改善につながっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して休めるよう日中の活動を促している。また、薬の服用については、医師の指導の下行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイルを作り、一人ひとりの薬の目的や副作用等を全員で理解している。服用による症状の変化等はその都度、かかりつけ医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理補助、食器拭き、洗濯物畳み等を行って頂いている。また、ドライブやレクリエーションで気分転換を図ったり、水分補給時に自分の好きな飲み物が摂れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	散歩や買い物、地域行事、ホーム行事等、戸外に多く出かけられよう支援している。	年間行事計画を立て、諸行事や外出へ利用者全員が出掛けている。普段から晴れ間を見ては外へ出て、景色からの刺激や、心の安定につなげている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者がお金を持つことの大切さを理解しているが、本人や家族の希望でホーム管理になっている。その中の一部を本人が持参し、職員同伴で買い物に出かけるときもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話の取次や本人が電話をかけたいと希望する時は希望に沿い支援している。手紙のやり取りもできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、臭い、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	柔らかで家庭的な雰囲気的生活空間になっている。ホールや廊下には利用者の作品を飾ったり、行事で撮った写真など貼っている。居心地よく過ごせるよう工夫している。また、不快感がないよう清潔に努めている。	大きな庭の見える、広いホールを活用し、利用者はソファでゆっくりと過ごしている。花を飾ったり、利用者が少しずつ装飾している壁があったりと、殺風景にならないよう工夫されている。季節感の感じられる庭には、冬期間イルミネーションを飾り、地域住民へも喜ばれており、温かい雰囲気の共有空間が出来ている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	利用者同士が自由に過せるようにホールにはソファとテーブルがあり。利用者同士、また、職員と一緒にお茶を飲んだり、思い思いに過せるよう居場所の工夫に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使用した馴染みの物を使用している。利用者一人ひとりの認知症状、ADLに合わせた居室作りになっている。在宅での生活が継続できるよう工夫している。	寝具類やチェスト、テレビや化粧品などさまざまな馴染みの物が持ち込まれている。居室には、色や形が違う利用者が作成した暖簾が掛けられている。また、物の配置を利用者一人ひとりに合わせたり、トイレがわかりづらい利用者の居室の位置などにも配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレがわからない利用者には場所を表示、混乱や失敗がないよう声がけや見守りをしながら、自立した生活が送れるよう工夫している。		